



第2次那珂川町総合振興計画

人・もの・自然が融和し みんなで手を取り合い 元気を生み出すまち

1 快適に暮らせるまちをつくる

快適に暮らすことが出来る環境づくりをめざして、利便性の向上に努め、住み良さを実感できる生活基盤の整備と維持管理を図ります。

自然と調和した地域の活力を生む土地利用を図ります。



ケーブルテレビ放送センターでは、自主放送番組や町議会中継など地域の身近な情報を発信
令和5年度からケーブルテレビ施設光化整備事業で災害に強い施設と大容量通信環境を整備



農ある田舎暮らし高手の里は町有地を20年間無償貸与



空き家などの所有者と利用希望者をつなぐ地域資源情報バンク



計画的に消防自動車を更新



交通安全教育指導員による小川中での交通安全教室



大田原市と連携し那須赤十字病院へ乗り継げるようになったデマンド交通

基本施策

- ▶ 土地利用の推進
- ▶ 都市基盤の整備
- ▶ 生活基盤の整備



白久から小川市街地を南北につなぐ町道76号線

2

元気で明るく暮らせるまちをつくる

乳幼児から高齢者まで誰もが心身ともに健康で、故郷の地で支えあいながら充実した生活ができるよう、健康、医療、福祉、少子高齢化対策などの充実を図ります。



子育て支援センターを併設する子育て支援住宅「エミナール那珂川」



[写真上]わかあゆ認定こども園のうんどうかい
[写真下]ひばり認定こども園のはっぴようかい



介護予防のための転ばん運動教室



介護予防ボランティアの「ほっとなかがわ」



きらきらベビークラスの絵本とわらべ歌遊び

基本施策

- ▶ 医療・保健の充実
- ▶ 高齢者福祉・社会福祉の充実
- ▶ 児童福祉・子育て支援の充実
- ▶ 社会保障の充実



健康イベント「ヨガ」

まずは「やってみよう!」の精神で どんどん広がるママ友の輪

おさりの輪がどんどん広がってゆく



ヨガインストラクター

磯野 奈央子 さん

(馬頭)



町で主催する「親子ヨガ教室」のスタジオには、子ども向けの音楽が流れる中、親子のスキンシップから始まり、ママたちのヨガの時はみんな気持ちよく体を動かして、楽しい雰囲気です。

この教室のインストラクターを務める磯野奈央子さんは、夫の勇さんと東京で結婚し、子どもが産まれてひと段落した2018年に那珂川町に移住してきました。町出身の勇さんに、いずれ戻ってお店を開きたいと言われて、それならばと町でもできそうなヨガインストラクター等の資格を取得したそうです。当初は、まだ子どもが小さかったため、子連れでもヨガをできる環境を作りたいと、個人で出会ったママたちに口コミで人を集めながらスタートし、徐々に人が集まっていったそうです。

「ヨガは自分のペースでできるのが魅力。自分の体



親子ヨガ教室

と会話することにより体の状態を知ることができ、忙しくて心がザワザワしてるかな?という時など、この親子ヨガ教室で余計なこと

を考えず1時間でも楽しんでもらえるように」と話しています。

奈央子さんは、サイズアウトしてまった子ども服を欲しい人に提供する「おさがり交換会」も行っています。那珂川町は子どもが少ないと聞いており、その中でもコミュニティを作りたいと思ったのがきっかけで、他の自治体でおさがり会をやっている人に話を聞き、とりあえずやってみよう!と始めたそうです。他にも「子どもにも英語を学ばせたいけれど英語教室があまりないので先生を呼んで始めちゃえ」と、とにかくポジティブで行動力抜群の奈央子さん。持ち前の笑顔と、奈央子さん自身の明るい性格で、どんどん仲間が増えているようです。

つながりの中で起業しているママがいることを知り、いろんなジャンルのママを呼んで「ママフェス」をやるのが夢だと言います。「体を動かすのが苦手な人、やってみたくて一歩踏み出せない人でもヨガ以外にも様々な企画があれば、来てもらうきっかけになるのではと考えています。興味のある方は気軽に会いに来てください」とのことでした。



親子ヨガ教室



おさがり交換会



英語教室

3

人を育むまちをつくる

次代を担う人材育成と豊かな人間形成を目指して、地域の特性を活かした一体感のある学校教育や生涯学習などの充実を図ります。



温水プールの「屋内水泳場(ウェルフルなかがわ)」



那珂川スクール
中学校へのスムーズな学びをつなげていくための那珂川スクールの開催



マイチャレンジ(職場体験)
スーパーでの商品補充



[写真上左]国体3B体操
デモンストレーションスポーツの3B体操は町総合体育館で華やかに行われた
[写真上右]国体ゲートボール
公開競技「ゲートボール」は小川総合福祉センター園地を会場に開催された



「スポーツ少年団新年交流会」で今年の目標を掲げる



公民館講座の「シニアここから教室」で写経に挑戦

基本施策

- ▶ 学校教育の充実
- ▶ 生涯学習の充実
- ▶ スポーツ・レクリエーションの振興
- ▶ 文化の振興
- ▶ 国際交流の推進
- ▶ 人権擁護・男女共同参画・青少年健全育成の向上



「なかがわ清流マラソン大会」の親子2kmコースに元気よく飛び出す参加者



国際交流事業では芳井地区の園場で楽しく稲刈り

大会に出て「記録」を更新するより「健康寿命」を伸ばすのが目標

格闘の舞う人なく
格闘の格闘



マスターズ陸上選手

高野 孝雄 さん

(富山)



富山にお住まいの高野孝雄さんは、令和4(2022)年8月に行われた第31回関東マスターズ陸上競技選手権大会において、M90部門(90~94歳)の男子ハンマー投げ、並びに男子重量投げにおいて日本記録を出して優勝されました。今までにもアジア大会で5回連続のメダル獲得、世界マスターズアメリカ大会において)投てき5種目で日本記録を出し、4位に入賞するなど、92歳にしてバリバリの現役アスリートです。

マスターズ陸上に出場するきっかけは、旧馬頭町で教育長をしていた時にあこがれの織田幹雄さん※がマスターズ陸上競技連合の会長に就任されたと知り、



今までに獲得したメダルや盾の数々

自分も参加してみようと思ったのだとか。初出場でいきなりメダル獲得するとそこからメダルラッシュが始まり、今までで236個のメダルを獲得しています。

高校生の時体操部だった高野さんが、近くの陸上部の部室で円盤や砲丸を見つけ、試しに投げてみたことが陸上との出会い。その時部員より遠くに投げられた

ので、それをきっかけに助っ人として大会に出場するようになりました。高校卒業時には県の優秀選手に選ばれたというのですから、そのころから才能の片鱗を見せていたようです。

ただマスターズ陸上に出場し始めた頃は、練習できる場所がなかったため、自宅で行なったり、仕事が終わってからの練習になってしまうので、夜10~11時頃に懐中電灯の灯りで練習したりとご苦労があったようです。今は毎日の練習はしないそうですが、やるときは10投程投げ、練習でも投げれば日本記録に届かない日はないそうです。またお肉が好きで毎日食べているそうですが、大会前には食事にも気を使い、苦手な野菜も食べるのだとか。

数々の功績を認められ第10回スポーツグランプリ賞(2015年)に選ばれ、当時の天皇陛下(現上皇陛下)に「これからも長く続けてください」と声をかけられたのが陸上を続けるモチベーションの一つだということです。ご本人は決して記録を出すためでなく、健康寿命を伸ばすことが最終的な目標だそうです。これからもお元気で長く競技を続けて欲しいものです。



練習風景 ハンマー(3.0kg)(写真左下・右)や重量(5.45kg)(写真中)を軽々と投げる

※三段跳びで日本で最初の金メダリスト

4

活力をおこすまちをつくる

これまで引き継がれてきた豊かな地域資源を守りながら、今ある産業をより安定したものにするとともに、新たな連携や結びつきにより産業の裾野を広げ、地域資源の価値を高め、働く場の確保・創出を図ります。また、交流人口を増やしにぎわいの創出を図ります。

花の風まつり 毎年ゴールデンウィークに町施設や町民、町ゆかりの皆さんが町内約35か所で開催



乾徳寺で絵手紙展示



ヒロクラフトでカッティングボード制作体験



6月の鮎釣り解禁から10月ごろまで那珂川は太公望でにぎわう



ファッションあらいでは花の風まつりのTシャツを制作



もうひとつの美術館でのオカリナ演奏と朗読劇



那珂川町ブランドに各店舗の工夫を凝らした商品を認定



馬頭農村塾での竹細工体験



なす風土記の丘資料館勾玉づくり



「ぶどう」などの農産物や果物も那珂川町ブランドに認定



匠の館まほろば語り



万葉ゆずの里ギャラリー棚田



草ぼうぼう亭コンサート



広重商まつり



基本施策

- ▶ 農林水産業の振興
- ▶ 商工業の振興
- ▶ 観光の振興

地域おこし協力隊による日本橋イベントで都心で那珂川町の良さをアピールする



「ワクワク」が止まらない！ 那珂川町の「笑顔」の仕掛け人たち



建設会社社長 鈴木 雅仁 さん (富山)
自動車販売 佐原 忠典 さん (小川)



鈴木 雅仁さん (写真左)、佐原 忠典さん (写真右)

那珂川町のお店や公園、イベント等で見かける、話題のものを作ったお二人にお話を聞きました。

老若男女、誰でも知っているあのピンクのドア(以下「どこへでもドア」)を作ったのは鈴木雅仁さん。ドアをいろいろなところに出没させて、訪れる人に驚いたり、楽しんだりしてもらっているそうです。あくまでも趣味でやっていることで、本業が建設業なのでドア製作の材料は自前で調達し、色を塗って仕上げているとのこと。鈴木さんは「ドアはおじいちゃん、おばあちゃんでも知っていて、大人が昔を思い出して楽しめます。大人になってからワクワクすることはなかなかない。ドアを開けたいとか、写真撮りたいとか、見る人の心をく



話が盛り上がるお二人

すぐりたい」と言います。ドアはどこに置いてあるのかと問い合わせもあり、わざわざ那珂川町にドアを見つけにやってくる人がいる

一方、車なのに黒板?!な「こくばんくるま」を作ったのは佐原忠典さん。アルミパネルの軽貨物車を引き取った際、これをみんなが楽しめるものにしたと思ったことで、毎日絵を描いてインスタグラムに更新しています(取材時点で565日連続!)。佐原さんの母親が会社の掲示板に「今日は何の日」

と記念日を書いていたことが、「こくばんくるま」の毎日更新のコンセプトとして繋がっています。その後「私も描きたい!」と仲間が集り、現在は11人の「こくばんくるまアーティスト」がいます。鈴木さんもメンバーの一人で、佐原さんが「どこへでもドア」と「こくばんくるま」で一緒に盛り上げられたらおもしろいと考え、声をかけたそうです。皆さんそれぞれが好きなものを書いていくスタイルで、ガチガチの集まりではないのが長続きの秘訣とのこと。

本業のかたわらの活動は大変な印象ですが、お二人とも「楽しんでいるだけ」と口を揃えます。佐原さんは「子どもだけを楽しませるのではなく、大人も楽しめる方がより子どもにとっても楽しめるのでは?」と言います。「こくばんくるま」を那須のキャンプ場に設置していた時、帰るため車を動かそうとしたら、母親の後ろで終始見ていた子どもに「描きたかったのに!」と泣かれてしまったので、あわてて戻ったそうです。

お二人の活動は町外にも広がり、鈴木さんは烏山の人がドアを作って観光地に置いているというのを聞き、「どこへでもドア」ツアーができればと思案中。佐原さんは日本理化学工業㈱のチョークを使用するため、やり取りをしたことがきっかけとなり、「kitpas^{※1}(キットパス)号」の製作に繋がっています。この「ワクワク」の輪が広がって、町全体が楽しく元気になるといいですね。



こくばんくるま



こくばんくるまの仲間^{※2}



どこへでもドア

※1 窓ガラスや鏡などつるつるした面に描けて、濡れた布で簡単に消すことができる筆記具

※2 写真手前左から鈴木さん、中村郁夫さん、金子創一さん、稲沢行生さん、久保裕史さん、写真奥左から菊地月香さん、佐原さん、吉成孝夫さん、磯野勇さん

5

人と自然が共生するまちをつくる

人々に恩恵を与える優れた自然は、次代に継承すべき共有財産として、共存共栄の視野に立って自然環境や生活環境の保全対策を図ります。さらに、町独自の地域循環型社会の構築を推進します。



小川第2行政区はきれいな町で国体を迎えようと区を挙げて清掃活動を行い、「とちまるくん」「なかちゃん」も参加



会員全員が参加して毎年行うシルバー人材センターの清掃活動



ゴミの分別活動
地域や子ども会での活動は効果的



なかちゃんトイレトーパーは、牛乳パックと交換、牛乳パックのリサイクルの習慣づけに



生ごみを回収してたい肥化し配布 (写真は販売用パック)



小型家電リサイクルイベント回収

基本施策

- ▶ 自然環境の保全
- ▶ 生活環境の保全
- ▶ 循環型社会の構築
- ▶ 環境学習の推進



馬頭中の地域貢献活動では学校近くの遊歩道や町の施設を全生徒で清掃

6

ともに考え行動するまちをつくる

町民・民間・行政などの協働によるまちづくりを推進するとともに、限られた予算や人員体制の中で、効率的で効果の高い行財政運営を遂行します。さらに、現在進めている定住自立圏での事業を推進し、人口減少の歯止めとそれぞれの地域の特性を活かしたまちの活性化を図ります。



馬頭高校の生徒が地元那珂川町を知るために学ぶ「なかがわ学」そのプログラムの一つとして小砂焼の窯元「藤田製陶所」での学習



那珂川町家庭教育オピニオンリーダーこうまの会のイベント「おやこでつってあそぼう」でペットボトルで作るビー玉落としにチャレンジ



小口さつき会の花いっぱい運動



皆さんの声を町政に「町政(まちづくり)懇談会」を開催

基本施策

- ▶ 行財政の健全化
- ▶ 住民参加・協働の推進
- ▶ 広域・地域間連携と交流の促進



地域の知恵や力を学校教育に生かす那珂川町コミュニティスクールの一つ馬頭小学校の「ミシンボランティア」